

こまえ平和フェスタ 2018 を終えて

こまえ平和フェスタ 2018 実行委員会

2018年8月12日(日)、狛江エコルマホールにて開催された「こまえ平和フェスタ 2018」(第14回)には、約360名の方にご来場いただき、55名の出演者で舞台企画が取り組まれ、また、ホワイエでは多くの市民参加による充実した展示等が行なわれました。展示は事前に中央公民館のショーケースで、事後は西河原公民館ギャラリーでも実施され、多くの市民の方に観賞していただきました。

今年のテーマは「平和な未来を子どもたちへ」です。昨年、国連では核兵器禁止条約の交渉会議が開かれ、核兵器を非人道的兵器＝絶対悪として禁止する条約が7月7日に国連加盟国の3分の2の賛成で可決・成立しました。いまは批准が進んでいるところです。世界から核兵器を廃絶する法的根拠が生まれ「終わりの始まり」(サーロー節子さん:カナダ在住の被爆者)として、この地球上から核兵器をなくす運動が世界中で起きています。国内でも狛江市など多くの自治体から交渉会議に参加しなかった日本政府に調印を求める決議があがっています。

狛江市平和都市宣言を掲げた狛江市民として、核兵器を廃絶し、戦争のない地球に向かって「微力だけど無力じゃない」(高校生平和大使の言葉)努力を積み重ねていきたいと思えます。

今年も情報保障として手話通訳と文字通訳を行ない、来場者から歓迎されました。引き続き実施していきます。

ご来場いただいた市民のみなさん、そして賛同広告や事前協賛金など物心両面でご協力いただいたみなさんの平和への想いを支えに、こまえ平和フェスタを成功裏に終えることができました。深く御礼申し上げます。今年も昨年に続き、単年度収支でほぼ採算が取れ、資金面で継続できる確信を得ることができました。本当にありがとうございました。来年はより多くの来場者を得られるよう工夫したいと思えます。市民手作りの平和フェスタを今後も続け、狛江市の平和文化の一端を担っていききたいと思えます。

来年の平和フェスタは2019年8月18日(日)を予定しています。なお、「こまえ平和フェスタ 2018」の詳細は(<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>)をご覧ください。

開幕宣言 きんたの会

私たちが踊っているエイサーに「地球兄弟」という曲があります。この曲は「青い青いこの星に生まれて、みんなつながって生きていく兄弟さ」という歌詞で始まります。私たちは、世界の人たちと仲良くしていきたいです。

では、こまえ平和フェスタ2018を始めましょう！

エイサー「笑顔のまんま」

「生きているだけでまるもうけ！」明るい元気の出る曲で開幕しました。

きんたの会は、太鼓を中心に南京玉すだれ、三線など日本の郷土芸能を練習しています。東日本大震災の被害に遭った岩手県陸前高田市への復興支援活動で、太鼓仲間と一緒に何回も踊った曲です。

司会 中野さやかさん。

中東地域の歴史研究が専門の先生で、狛江では「こまぴーす」の一員として活動しています。就学前の2児のお母さん。今回、初めて平和フェスタの司会をお願いしました。



二階堂実行委員長のあいさつ（概略。以下同じ）

今年の猛暑、大雨も異常ですが、モリカケ問題とか公文書改ざんとか、それをうやむやにしようとする姿勢とか、今の日本の政治も異常です。

中米コスタリカは1948年に軍隊を捨て、今では本当に軍隊のない豊かな国になっています。パネルディスカッションではコスタリカから学べることを考えたいと思います。戦争がないだけではなく、貧困も差別も無い「積極的平和」について考える時ではないでしょうか。



松原俊雄狛江市長のあいさつ

職員時代に平和事業として中央公民館でパネル展示とか戦争当時の用品などを展示、また子どもたちのために市民広場で平和の映画や子どもたちが楽しめる映画を上映して、思い出に残ることをいたしました。子どもたちに平和の尊さ、大切さを伝えていかなければいけないと思っています。平和フェスタの中でもそうしたことが伝えられて、本当にうれしい。狛江市は平和宣言都市であり、しっかりと、全国に世界に発信していきます。



宮坂よし子狛江市議会副議長のあいさつ

平和フェスタは平和への心を新たに作る大事な機会となっています。昨年7月、人類史上初めて核兵器を違法とする核兵器禁止条約が国連で採択されました。市議会では11月に「日本政府に核兵器禁止条約に調印することを求める」陳情が採択され、市議会として日本政府に意見書をあげることができました。狛江市平和都市宣言にあるように、議会としても憲法の平和条項を守り、核兵器の廃絶、戦争のない世界を目指すため頑張ります。



「18歳、最後の二等兵」 寺尾浩次さん 戦争体験のお話

中国天津（てんしん）租界*1で生まれ、小学校卒業後、水害に遭い貿易商を営む父親を残して大阪に引き揚げて旧制中学を卒業しました。教育勅語を中心とした教育を受け、軍国少年となっていて、兵器製造の技術者になるために北京工専に入学しました。しかし、ほとんどが軍需工場への勤労働員で勉強ができず、翌年の1945年4月には18歳で徴兵され、北京南苑陸軍飛行場大隊に配属。軍隊では「上官の命令は天皇陛下の命令である」との軍人勅諭や生きて捕虜になることを許さない戦陣訓等が覆いかぶさり、対面ビンタなどで上意下達、絶対服従の精神を植えつけられました。



その一方、戦力はボロボロ。木材で飛行機を作るが毎日来る米軍の偵察機に見破られていました。監視塔が深夜に焼き打ちにあっても、追撃できる戦力はなく、それで自分は殺すことも、殺されることもなく、終戦後、日本に引き揚げることができました。飛行場は特攻機の中継地になっていて、年下の紅顔の少年搭乗兵を見送りました。その搭乗機の質は落ち、戦闘機から練習機に、ついに民間の旅客機が使われ、敵艦に激突する前に撃ち落とされるのは分かっていました。人命軽視の極みです。

寺尾さんは、戦争で青酸カリ自殺をさせられたり、餓死したりと悲惨な死に方をした友人や親せきがいると話されました。中国軍の攻撃を恐れて万里の長城沿いに幅4km、長さ100kmの無人地帯を作る三光作戦*2があったことを、戦後、勉強することで知ったことに触れ、教職について以来、生徒には「色々な情報を鵜呑みにしないこと、真実はなんであるか見抜ける人間になりなさい」と言っている。」と締めくくりました。

*1: 欧米列強とともに清国から強制的に租借した日本人居住区。行政自治権・治外法権を持つ。
*2: 三光作戦：殺光（殺し尽くし）、焼光（焼き尽くし）、搶光（奪い尽くし）。日本軍が強行した熾滅作戦に中国側が付けた呼称。

狛江市平和都市宣言朗読劇 出演：鈴木裕大さん、富田 翔さん、二階堂まり実行委員長

今年には憲法の戦争放棄を定めた時の幣原喜重郎首相の思いや、核兵器禁止条約にまつわる話など、昨年とはまた違った朗読劇となり、来場者に好評でした。

幣原喜重郎は「次の戦争は短時間の内に交戦国の大小都市が悉く灰燼に帰して終うことになるだろう。そうならば世界は真剣に戦争をやめること

を考えなければいけない。そして戦争をやめるには武器を持たないことが一番の保証になる。」
「相手はピストルをもっている。その前に裸の体をさらそうと言う。…。正に狂気の沙汰である。…。これは誰かがやらなければならないことである。」「要するに世界は今一人の狂人を必要としているということである。これは素晴らしい狂人である。世界史の扉を開く狂人である。その歴史的使命を日本が果たすのだ。」

核兵器禁止条約は「安全保障のための『必要悪』などではなくて人道的に『絶対悪』だとずーっと訴えてきた被爆者の願いが盛り込まれた」として、会議に参加せず、調印をしていない日本政府に、平和宣言都市として「狛江市民こそ、日本が核兵器廃絶条約を調印するように働きかけるべきじゃないのかな。」と訴えました。



「折り鶴」「Believe」 平和フェスタ 2018 合唱団

指揮：大熊啓（あきら）さん、ピアノ伴奏：菊池リカさん



第二部の幕開け「Heiwa の鐘」 平和フェスタ 2018 合唱団

2000年沖縄サミットのテーマ曲であり、現在、小学校・中学校・高校での合唱コンクールでとても人気のある曲です。

エイサー「かりゆしの夜」 きんたの会

「かりゆし」とはおめでとうという意味です。オープニングで踊った「笑顔のまんま」もこの曲も、「琉球國祭り太鼓」と



いう創作エイサーをたくさん創っているグループから習ったもので、やはり沖縄出身のグループ「BEGIN」の曲です。

パネルディスカッション

「平和ってなあに～コスタリカから学べることは～」

国際ジャーナリストで2年に1回コスタリカを訪問している伊藤千尋さん、高校1年の時に留学した大学生の岡野奏子さん、そしてコスタリカを取材して朗読劇の脚本を作成した二階堂まり実行委員長の3人で話合っていました。

最初に伊藤千尋さんから話題提供。①戦後、平和学という学問が起こり、戦争という直接的な暴力だけでなく飢餓・貧困・抑圧・差別などの「構造的」暴力もない世界が「平和」な社会と定義され、それをコスタリカでは中学2年から教えている。②1949年に軍隊を放棄したのは内戦で多くの命を失い、その反省から。軍事費は全て教育に使われ、発展途上国でありながら豊かな国になった。③国際平和への貢献の例として1980年代に中米にあった3つの紛争を話し合いで解決させたこと、国連平和大学の国内設立や核兵器禁止条約の議長国などが挙げられる。国民の平和意識は非常に高く、憲法を積極的に使うようになり、子どもでも憲法裁判を起こせる。④400万人の人口で100万人の難民を受け入れた、等の話が紹介されました。

パネルディスカッションでは特に教育の国、人を大切にする国、エコリズム発祥の国の3点で大いに話し合われました。地域の特性に合った教育が推奨され、高校まで無償、大学生も7割が返済なしの奨学金を受けていること、困っている人がいれば必ず声をかけることなど、話は具体的で新鮮でした。積極的平和主義の本当の意味がコスタリカを通して浮き上がってきました。会場からも質問が出されるなど、活発な催しとなりました。



伊藤千尋さん

岡野奏子さん



全員合唱 水と緑のまち

指揮者の大熊さんは狛江市の歌「水と緑のまち」の最後の部分「ともに求めつくろう」は作詞者の故加藤弘先生が一番言いたかったメッセージだと思います。誰か偉い人がこの町を良くしてくれるのではなく、私たち市民の一人ひとりが声をあげて行動して行ってこそ、狛江市は良いまちになるという意味をしっかりと受け止めて歌いたいと思います、と指揮を執りました。

ホワイエでは展示と平和図書コーナー、折鶴コーナー、KOPPIEの皆さんによる東日本大震災支援「たいのぼり」販売、そして伊藤千尋さんの書籍サインセールがありました。

展示は

○故加藤弘さんの狛江市歌「水と緑のまち」作詞への思い ○世界の非核兵器地帯と核兵器禁止条約 ○チョンマゲ隊の被災地支援 ○福島原発事故被災者の状況 ○平和を願う貼り絵 ○平和を願う川柳・俳句・短歌、絵手紙（公募） ○原爆写真と空襲の記録 ○沖縄と東京の米軍基地など、多くの協力団体・者による多彩な展示に多くの方が見入っていました。



エコルマホールホワイエ



中央公民館ショーケース



西河原公民館

7月に中央公民館2階ショーケースで、8月後半に西河原公民館ギャラリーでも展示。

2018年9月こまえ平和フェスタ 2018 実行委員会発行

ホームページ：<http://komae-heiwa-fes.clean.to/>